

MESSAGE

「記憶の解凍」

～AIとカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争～

「記憶の解凍」とは、AI(人工知能)技術や当時の資料、戦争体験者との対話をもとに、原爆投下前の日常の白黒写真をカラー化する取り組みです。

私は広島に生まれ育ち、幼い頃から学校で平和教育を受けてきました。原爆投下後の悲惨な光景は、当時の私には受け止めきれず、苦手意識を持っていました。

そんな私が、戦争や平和について深く考えるようになったきっかけは、かつての「中島地区」の存在です。現在の広島平和記念公園にあたるその場所は、被爆前、多くのお店や旅館が立ち並び、4,400人が暮らす繁華街でした。高校在学中に、中島地区の元住民たちと出会い、戦前のご家族とのしあわせな日常を写した貴重な白黒写真が残っていることを知りました。「被爆前には、今の私たちと変わらない暮らしがあって、それがたった一発の原子爆弾で一瞬のうちに奪われてしまったんだ」と、戦争を自分ごととして想像できました。

そんな時、母校のワークショップで、東京大学大学院の渡邊英徳教授から、AIによる自動色付け技術を学びました。「カラー化した写真をプレゼントして、原爆で亡くなったご家族をいつも近くに感じてほしい」との思いから、カラー化を始めました。

AIでカラー化するだけでなく、当時の資料や、戦争体験者との対話の中でよみがえる「記憶の色」をもとに、手作業で色補正を繰り返します。

中島地区の元住民・高橋久さんの生家は、現在の原爆供養塔のすぐ東隣りで「高橋写真館」を営んでいました。ご自身は江田島海軍兵学校にいたため、原爆投下によりご家族の中でたったひとり残されました。2017年の秋、久さんの父の脩さんの遺骨が、72年振りに原爆供養塔から返還されたというニュースをテレビで知りました。その時に、仏壇に飾られていた家族写真を見て、「ぜひカラー化してお渡ししたい」と思い、ご息女の久美子さんに連絡

を取りました。久さんは認知症を患い対話は難しいとのことで、久美子さんにカラー化写真をお渡しして、久さんに見ていただくと、「自身が写っているかどうか分からない様子だけれど、写真を見て微笑んでいますよ」と教えていただきました。その後、直接お話を伺う機会をいただき、久さんと久美子さん、私の3人で、カラー化写真のアルバムを開んで1枚目をめくった瞬間、久さんが原爆で失った家族との思い出を生き活きと語り始めました。スイカの写真はカメラのフラッシュが眩しくて皮をかぶったこと、シロツメクサだと思った小さな花はたんぽぽだったこと、名所「岩鼻」の写真では「この鼻だよ」とご自身の鼻を指差して、撮影した場所を教えてくださいました。久美子さんは驚き、「こんなに話す父を見たのは初めてです」と喜ばれたことがとても嬉しかったです。

凍りついていた家族との悲しい記憶が、カラー化写真をもとに対話することで、戦前のしあわせな日常の記憶へと変わっていく。その様子から「記憶の解凍」と名付けました。

その2週間後の8月6日、中島本町の慰霊祭で久さんと再会しましたが、もうお話を伺うことはできませんでした。戦争体験者と直接対話できる時間が限られていることを改めて実感し、カラー化写真を通して、戦争体験者の「思い・記憶」を広く伝えたいと思いました。

その後、講演やカラー化写真展、映像、アプリ、カラー化写真集、音楽など、さまざまな表現で、共感と共に伝え続けています。戦前は「大正屋呉服店」で被爆建物の平和記念公園レストハウスが2020年にリニューアルオープンする時、3階の中島地区を紹介するコーナーで「記憶の解凍」の常設展示を担当しました。カラー化写真を現在の平和公園の風景に重ねて表示する「記憶の解凍」ARアプリのQRコードも紹介しています。アプリを使いながら平和公園を歩くことで、国内外の観光客に、時空間を越えて、かつての中島地区の生活の息遣いを感じてほしいです。

2024年春、広島テレビに入社し、ニュースやドキュメンタリーを制作しています。「被爆80年プロジェクト」メンバーとして、「記憶の解凍」の番組やイベントの企画も担当しています。また、2025年夏の公開に向け、7年間の戦争体験者との対話をまとめた映画も制作中です。

「もう誰にも同じ思いをさせてはならない」

これからの平和を希求する戦争体験者に寄り添い、日常の中で、多方面の人が自分ごととして戦争や平和について考えるきっかけを、広島から伝え続けたいと思います。



庭田 杏珠
NIWATA Anju

プロフィール

2001年、広島県生まれ。2024年東京大学卒業後、広島テレビ放送株式会社に入社。AI技術や当時の資料、戦争体験者との対話をもとに、原爆投下前の日常の白黒写真をカラー化する「記憶の解凍」に、高校時代から取り組む。講演や展示、映像制作、アプリ開発など、アートやテクノロジーを通じた戦争体験者の「思い・記憶」の継承を続ける。令和2年度「東京大学総長賞」、「AIとカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争」(共著、光文社新書、2020年)で「広島本大賞」など受賞。2025年夏公開予定の映画「記憶の解凍」を制作中。



1936年ごろ、中島本町(現在の広島平和記念公園)にあった生家「高橋写真館」で撮影された、家族と親戚の夏の団らん。スイカの皮をかぶっているのは、カメラのフラッシュが怖かったからとのこと。(写真提供:高橋久 カラー化:庭田杏珠)

